

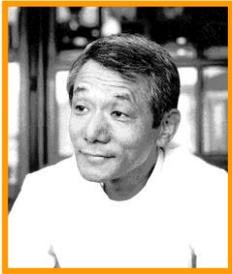
岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 6 (2006. 5 発行)

今年度の研修会スケジュールを掲載しました。皆さん、ご確認下さいね。



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会
 事務局: 木沢記念病院 ST室

終末期の嚥下障害と栄養管理



特定医療法人フェニックス
 鷺沼中央クリニック
 院長・理事長 長縄 伸幸

私どもが日頃その対応に苦慮している嚥下障害は、高齢者の終末期における摂食障害

です。脳血管障害・認知症や加齢（廃用性を含む）がその主な原因ですが、毎日の嚥下訓練・口腔ケア・食事内容や形態の工夫にも拘らず、徐々に足音を忍ばせ やがて訪れる摂食障害に対して、その栄養管理をいつどの様に変更するか スタッフは悩まされ続けています。

私どもは、老人保健施設開設（平成6年）以来「口から食べる」ことにこだわり続けてきました。当初は、管理栄養士や看護師を中心に取り組み、時には大挙して聖霊三方原病院の嚥下リハビリ訓練を見学したこともあります。

終末期は、何度も誤嚥（不顕性誤嚥を含む）によると思われる肺炎を繰り返すのですが、その嚥下機能の評価と摂食再開のタイミングを決める役割は、2人のSTと管理栄養士・看護師および各部署のケ

アスタッフからなる栄養サポートチーム（NST）が果たしています。これは、以前からの嚥下摂食・栄養に関する法人内勉強会（嚥下摂食栄養委員会）が昨年春に本格的栄養管理を目指して発展的解消し、誕生しました。最近では、各部署で重度化した高齢者が多くなり、その栄養管理が共通した悩みです。経口摂取量が徐々に減少し始めると、適時補液で主に水分量を補うのですが、やがて低栄養による浮腫や血管が脆弱し末梢で点滴ルートを確保することが難しくなる終末期を迎える頃、どの様な対応が最善かいつも惑わされます。在宅ケアに深く関わる以前の私でしたら、迷うことなく中心静脈による高カロリー補液を行っていましたが、経口摂取による消化管の免疫機能の重要性が再認識された現在では、本人の苦痛や合併症の少ない胃瘻造設を選択することが多くなっています。経口摂取の不足分を胃瘻から補う従来の方針に変わりありません。しかし、簡単に胃瘻造設に走る風潮のある今、終末期における栄養管理のあり方が問われています。在宅ケアを推進する診療所の全国の仲間で作る（NPO）在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークでは、厚生労働省の委託で終末期の医療のあり方を研究検討しているところです。

8020 達成を目指して



土岐市立総合病院
 歯科衛生士 近藤 悦子
 岐阜県嚥下障害研究会 会員
 の皆様、こんにちは。私は、土岐市立総合病院 歯科室に勤務している歯科衛生士です。

高齢化社会を迎え平成18年4月に改正された介護保険ですが、新たな制度の導入にあたり、歯科保健医療の現場でもダイナミックに変化が求められ、

新しい歯科衛生活動の始まりとなりました。そして、私たち歯科衛生士は口腔機能の向上支援（口腔ケア）のため 他の専門職と連携しサービスを提供して、摂食訓練・口腔清掃・介助・支援・指導を行っていきたいと考えています。

ところで、「今 ご自分には何本歯があるのか」知っていますか？ 加齢（40歳）を境に急に歯を失う傾向があります。その原因の一つは“歯周病”です。歯周病は生活習慣病と密接に関わりあっていて、食事・歯磨き・過労・ストレス・喫煙・睡眠など 生活

習慣の改善に心がけると予防できます。最近では歯周病が単に口の内だけでなく、心内膜炎や肺炎など様々な病気の原因になることが分かってきました。まず、歯周病予防には毎日の歯磨きが大切です。歯垢（プラーク）を徹底的に除去する、正しい歯磨き法を身につけましょう。また、喫煙は歯周病の進行に影響します。タバコを吸う人は吸わない人に比べて

歯磨き、しよう



歯周病にかかりやすく、治療を受けても再発しやすくなります。これはニコチンなどの作用によって血液の流れが悪くなり、細菌と戦う力が弱くなっているからです。

歯周病のお話ばかりしてきましたが、歯を失うもう一つの原因として“虫歯”があります。虫歯は放置していても治りません。どんどん悪くなっていきます。予防法としては、歯周病同様 歯磨きなどの自己管理に尽きますが、水がしみる・物がよく詰まるなどの諸症状がある人は、早く歯科医院で治療して下さい。歯に穴が開いているのに痛くないからと放置していませんか？ よく噛むためには歯を失わないことが重要です。お口の健康を保つためには、定期的に歯の健康診断を受けましょう。

最後に、「健康は歯から口から笑顔から」と言われています。共に、健康で明るく元気に 長く自立生活ができるようにしたいものです。

**成人勉強会
レポート**



笑顔の素敵な講師陣
川畑・栗木・田水さん

口腔ケアの第一歩

医療法人香徳会 関中央病院 介護士 縄田 順子

第4回勉強会「口腔ケアの実際（第2弾）」に参加しました。最初にスライドを用いての講義があり、その後 歯垢を実際に採取し画像で見せていただき、「わあ、こんなに細菌がいるんだあ」と思いました。そして、口腔内はきれいそうに見えても意外と汚いんだということに気づきました。

アッ動いてる



後半の実技では、歯磨き後に染め出し液を使って磨き残し部分の染め出しをしましたが、赤い部分が残っていた時、「恥ずかしい」という気持ちと同時に「こんなにも汚れが残っているんだなあ」と思い知らされました。自分ではきれいに磨いているつもりでも、実際は汚れが残っていることを知りました。配布資料にも書いてありましたが、『自分の歯磨きが



実技風景（歯磨き場面）

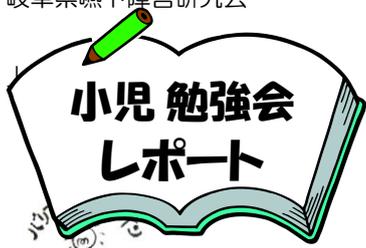
上手でなければ、他人の歯は上手に磨けない』ということがすごく実感できました。

今回参加して、口の開け方や歯ブラシの使い方、口腔ケアをする時の体勢や体位などを教えていただき、「こんなやり方があるんだあ、こんな体勢でやった方がいいんだあ」と、いろいろと学ぶことができました。また、ケア方法以外にも ケア用品の紹介などもあり、すごく参考になりました。勤務先の病院でぜひとも使ってみたいなあと思った物品が多々ありました。

なお、今回の勉強会で学んだ事柄を まずは私の所属している病棟スタッフに伝達したいと思います。そして、病院のケア方法に 今回学んだ内容を取り入れられたらいいなあと思います。

これからは、患者様方に 不快感を与えず、効率よく、気持ちのいいケアが提供できるように、一生懸命頑張っていきたいと思います。

（1月21日 参加者28名、少人数にてなごやかに研修実施、講師：多治見市訪問歯科衛生士メンバー 栗木みゆき氏・川畑妙子氏・田水陽子氏 3名）



講師の繁成先生

収穫の多い勉強会

恵那市役所 少子化対策室 発達相談
療育相談員 小川 志保子



日々の療育指導の中でポジショニング（姿勢保持）の必要性を痛感していたので、第16回小児勉強会「ポジショニング&シーティングー子どもたちのQOLを高める姿勢づくりー」の案内を頂くと同時に申し込み、参加しました。製作実習用に指定されたリンゴ箱を事前入手するため、職場の同僚たちと商店巡りしてリンゴ箱をやっと見つけての参加でした。

午前の講義（講師：近畿福祉大学 福祉産業学科 教授 繁成剛 先生）は内容的にとっても分かりやすく、また 繁成先生のその熱意と職人技に脱帽。午後からは製作実習で、ダンボール箱と格闘。簡易椅子とはいえ、私にとって初めての椅子製作実習。製作中は誰もがもう真剣で、その取り組みには職種や年齢を超えての団結力が随所に伺えました。そして、普段の療育現場では分からなかった仲間たち（恵那市養護訓練センター・にじの家 元同僚ら）の几帳面さや機転の良さ。とても新鮮な発見でした。

また、勉強会の世話役の方々たちも 参加者が落ちこぼれないようにと、詳細な図面や説明書き・道具の用意など、準備万端で当日に臨まれていました。そのお陰で、出来上がった時の気分は最高。久々の達成感。充実の一日でした。さらに、椅子作製上の



講義風景（ウレタンフォームの切り出し場面）

ポイントや様々なケースに合わせての工夫など、製作の実体験を通じて ポジショニングの奥の深さを実感しました。

「食べること」、それは意欲・生命力。そして、発達の集大成！ 日々の療育で最も大切なものと考え、本研究会に入会して 今年で4年になります。地域に根ざす療育を目指している私の座右の銘、それは『継続は“力”、人脈は“宝”、情報は“活力”』。こうした私にとって、この研究会は 医療・福祉・教育の各分野から多職種の方々に参加され、また 小児から成人・高齢者までを対象とした勉強会や症例検討会・学術講演会などと、その内容の幅広さによって 多様な療育・医療・福祉ニーズが満たされる研究会かと思えます。まさしく、私には 参加するたびに新しい出会いと発見、そして多くの情報の宝庫なのです。

今回も実に花も実もある収穫の多い勉強会でした。今後も吸収したものから種を作っては、地域で花を大きく咲かせ 沢山の実が付けられるような、そんな研修会の開催をぜひともよろしく願いいたします。収穫の多い勉強会、ありがとうございました。

（3月11日 参加者83名 姿勢保持の基礎を学ぶ）

～ 事務局便り ～ 年会費納入 受付中！

納入金額：平成18年度分会費 1,000円

納入期限：6月末日まで（前年末納者は2,000円）

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会
口座番号 00890-3-114142

- * 同封の郵便振込用紙をご利用ください。
- * 通信欄に「18年度分会費」とご記入願います。
- * “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
- * 2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

（注）未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！
問い合わせ：木沢記念病院ST室 研究会事務局まで

耳寄り 中上級 研修会

【朝日大学付属病院 摂食・嚥下障害研究会】

開催日：毎月第3木曜日（但し10月のみ 休会）
時間：午後5時～6時半（参加費：無料）

会場：朝日大学付属病院 会議室

内容：症例検討会（小児・高齢者 各1例）、
論文抄読会、情報交換および相談など

参加資格：摂食・嚥下障害の基礎知識を有する方
申込先：朝日大学歯学部付属病院障害者歯科 内
事務局 担当者 安田順一 宛

* 氏名・所属・連絡先を記載し、下記にFAX！
TEL&FAX：058-329-1105（直通）

平成18年度 研修会 年間スケジュール

成人部門

都合により、日時・場所・内容・講師
などを変更する場合があります！

小児部門



● 摂食・嚥下リハ 初級課程 講習会
 日時：平成18年8月20日（日）
 午前10時～午後3時
 場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室
 （美濃加茂市古井町）

参加費：会員 1,000円 非会員 3,000円

■ 第1回勉強会

日時：平成18年7月8日（土）午後2時～3時半
 場所：朝日大学 歯学部 1号館 3階 第4大講義室
 （瑞穂市穂積）

内容：「関中央病院におけるNSTの取り組み」

講師：齋藤雅也氏（関中央病院 院長）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

■ 第2回勉強会

日時：平成18年9月30日（土）～10月1日（日）

場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室

内容：「摂食嚥下障害に対する理学療法的アプローチ
 — 講義および実技 —」

講師：富田昌夫氏

（藤田保健衛生大学 教授、理学療法士）

参加費：会員 4,000円 非会員 5,000円

募集人数：40名（会員優先とします）

■ 第3回勉強会

日時：平成18年12月9日（土）午後2時～4時

場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室

内容：「口腔ケアの実際」（演習を主体として実施）

講師：栗木みゆき氏・川畑妙子氏・田水陽子氏

（訪問歯科衛生士）

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

募集人数：30名（会員優先とします）

■ 第4回勉強会

日時：平成19年3月17日（土）午後2時～4時

場所：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室

内容：「症例検討会」

参加費：会員 500円 非会員 1,000円

■ 第1回（通算 第17回）勉強会

日時：平成18年5月27日（土）午後

場所：豊田学園医療福祉専門学校（岐阜市）

内容：「おいしく楽しく食べるために—
 栄養・調理・食形態—」（講義&実習）

講師：海老子里美氏・斎藤啓子氏・溝口理知子氏

（豊田市こども発達センター 職員）

■ 第2回（通算 第18回）勉強会

日時：平成18年7月29日（土）～30日（日）

場所：豊田学園医療福祉専門学院（予定）

内容：「AAC（拡大代替コミュニケーション）セミナー」

① 講演「心の自立を育むコミュニケーション支援技術」

畠山卓郎氏（星城大学リハビリテーション学部教授）

② スイッチ製作実習「ソフトルカボグ-入門」

③ ワークショップ「ソフトルカボグ-の世界へようこそ」

宮崎みわこ（こころ工房、AACスペシャリスト）

■ 第3回（通算 第19回）勉強会

日時：平成18年11月25日（土）午前&午後

内容：「学齢期における脳性麻痺児の日常生活支援」

講師：佐々木清子氏

（心身障害児総合医療療育センター、作業療法士）

■ 第4回（通算 第20回）勉強会

日時：平成19年2月頃（土）午前&午後

内容：「症例検討会」

第9回 学術講演会・総会

日時：平成18年10月29日（日）

午前10時～午後3時40分

場所：大垣市情報工房（リハビリピアセンター隣）

内容：午前 講演「摂食嚥下障害と姿勢コントロール」

古澤正道氏（ボバース記念病院、理学療法士）

昼時 嚥下障害補助食品の展示&書籍類の販売

午後 ショッピング「摂食・嚥下障害におけるチームア

プローチの進め方—病院・施設から地域へ—」

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円



— 編集後記 — 診療報酬の大幅な内容改定と介護保険の見直しに伴う新予防給付制度の実施に伴い、口腔ケアならびに摂食・嚥下障害に関する研鑽の場がこれまで以上に求められているのではないかと思います。これら会員の皆様方の要望にお応えすべく、今年度も嚥下研では様々な内容の研修会を用意しました。沢山の方々のご参加を心よりお待ちしております。（県立希望が丘学園 田本）